

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, April 30th, 1956. No. 290.

關西大學學報

昭和31年4月 第290号

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十一年四月三十日発行（毎月一回三十日発行）
通巻第二九〇号



桜花爛漫（千里山学園の桜）

關西大學學報局

関西大学と呼ばれるこの学園で学ぶ四ヶ年間に、もしできれば、専門学の学習に這入らない前の一般教育課程履習の一ヶ年半に、おのれの全生涯を託するに足るような友達、つまり、親友を見いだして欲しいのである。もとより、友達というものの中には、幼稚園とか、小学校とか、中学校とか、高等学校などの過程で出来た者もあるに違いない。こんな友達も、おのおの、捨てがたい持ち味をもっている。だが、自我にめざめ、知性にみがかれ、教養の高さに支えられた大学の学生時代に恵まれた友達だけは、一生を通じても容易に変わることのない、また、いつまで語つても話題



親友、読書、合唱

——本年度の入学式における言葉の一節——

岩 崎 卯 一

のつぎることのない伴侶となる可能性が多い。このことは、人生の黄昏に在るひとびとが、自分と親友との最初の接近を回想するとき、ひとしく痛感するところである。「親友は旧制の高等学校か大学予科で、これに反して、知人は旧制の大学で得られる」というのが、古い時代に大学を出たひとびとの体験からにじみでる実感であつた。かような大学での親友は、得ようとする念願さえあれば、教室や演習室だけでなく、運動場でも、部室でも、電車中でも、自宅でも、食堂でも、喫茶店でも、その姿を必ず現わしてくる。若い頬を紅潮させ、秀でた眉をあげ、口角泡を飛ばしながら、心を許した友と、人生を語り、社会を論じ、恋愛

を告げあう学生時代の想い出は、美しい夢となつて、人の世の疲れを終生慰めてくれる。だから、一通の学士記証書を得ただけで、友の一人もつくり得ないで、わが学園から、巣立つひとびとは、大切な贈り物の一つを忘れ去つた者だと、いいうるであらう。

二

関西大学が、いま最も力を入れているのは、図書館の充実である。本年度の大学予算をみると、図書購入費だけで、二千三百万円の巨額が、計上されている。専門学に関するものだけでなく、一般教養に資するものは、小説の類にいたるまで、わが図書館に、備えつけられている。だから、わが大学の学生たちは、入学

を一つの機縁として、読書の習慣を養つて欲しいのである。専門学の履習段階に進むと、学問と文化とに関する一般教養の書に親しむ心と時との余裕に恵まれなないので、一般教育課程履習の一ヶ年半に、「趣味の第一は、読書である」といいうるほどの読書児になることが、強く望まれる。わたくしをして卒直にいわしむれば、いわゆる乱読でも、そのひとが大学生である限り、一向差支えないのである。わたくしは、六年前に重い病に倒れ、久しく生死の境を病床で彷徨つたことがあつたが、その時、骨を嚼むような寂しさを救つてくれたものは、少年時代から身につけていた読書の習慣であつた。「病床に書あり、これを読むわが眼だに

健やかなれば、われ寂しさを訴えまじ」というのが、そのときの心境であつた。が、真に読書の醍醐味に徹するには、ひとり自国語だけでなく、外国語の修得をも、必要とする。かような語学の修得にもまた、本学に入学してからの一ヶ年半が、最良の時期である。

三

関西大学の学生生活における一つの盲点、は、若い時代の青春や憧憬などを讀める歌のすくないことである。もちろん、わが学園にも、第一級と折り紙のついている学歌もあり、この他にもなお、学生歌や応援歌や逍遙歌がある。これらは、学生たちから、機会あるごとに愛誦されている。しかし、いまの規模のわが大学としては、その数がいかにもすくない。しかも、儀式の場合の学歌と、運動競技の場合の応援歌と学生歌とを除けば、他に学生たちの喉から自然にほとばしり出る歌の合唱を聴くことなどは、ほとんど稀である。ところで、「あゝ玉盃に花うけて」にはじまる旧一高の寮歌や、旧三高とか旧北大予科などの逍遙歌のメロディーを、窓越しにまたは木の間にぐれに聴いていると、老齡のわたくしでも、これを合唱していた時代の青春を想い、合唱の仲間だつた旧友を憶い、その場の情景までが、^{まぶた}瞼の底から浮かびあがってくる。懐旧の情におのれを忘れるとは、まさにこのことだと感ずることが、しばしばある。眉に皺を寄せて思索の深さを銜うようなひとびとからは、単純な頭のロマンチストだと、あるいは罵られることがあるとも、ひるむことなく、理想と青春とを讀めた夢多い歌を、朗かに合唱する若人たちが、わが学園に充ちあふれても、それは喜びでこそあれ、決して憂いではない。

(学長・法学博士)

「学者にしても、特定の人間からとやかく言われようとも、全人類に対する責任を執ることの方が、ずっと大切なことではなからうか」と嵯峨根遼吉博士はいつているが、物理学研究室における核分裂の実験が、世界の平和に寄与し得るか、それとも人類の滅亡を招来するかも知れない。

今日ほど、大学内における学問の研究がわれわれの現実世界に圧力を加えて来るのを切実に感ぜられるようになった時代は、おそらく史上稀である。まさに「大転換期」とであるといつてよい。



大学の教育と予算

— 構想と計画 —

久井 忠 雄

第二次世界大戦後、真理の失墜、正義感の墮落、調和への懐疑的な圧迫、自由の信念の動揺などが、現代

の世界的境位を特色づける徴表であるかのようになっている。この文化的混乱に基く変貌が社会的不調和を避ける正しい方向に行われるであろうとは保証し難く、この種の欠陥はともすれば社会集団をして衝突させる原因ともなり易い。

かかる世界的境位に臨むごとに、古より常に人間の復興が叫ばれ、そしてまた遠く人類の自覚に淵源をもつヒューマニズムの擡頭が要望されて来た。現代も

また新しいヒューマニズムが、原子力を契機とする大転換期に確固不拔の基礎を確立し、全人類の悲願を達成せしむべきではなからうか。嘗つてH・G・ウェルズが「文明とは教育とカタストロフイとの間の競走である」といつたことがあるが、人類のカタストロフイを避ける唯一の道はただヒューマニスティックな教育に俟つてはならないであろう。殊に大学の研究室が直ちに現実の世界に繋る今日の社会において、大学教育のもつ意義を考え直し、広く人類の福祉に貢献し得る文化的指導者たるべき人材の養成を期する教育管理

方法の発見とその遂行とは、現下わが国のみならず、世界の大学人たちに課せられた緊要の責務であり、かくしてこそ所謂「大学の危機」を超越する機会が与えられるであろう。

このような変転する社会的境位にあつて大学の占めるべき位置と、それに処する大学教育政策との再検討は、私が就任以来痛切に感じて来たところで、特に本学の発展の基礎をここにおく場合、大学を真理探究の道場と看、教授を真理の象徴と観する途こそ至上命令である。真理の象徴たる教授は死を睹してもその真理を主張する勇氣、縷骨碎身の研究心、己れをむなしくして学生を育成する等、学を尊敬し、弟を愛すればこそ、学園内に育まれるヒューマニズムは澎湃として興

り、大学の使命を達成するに貢献するであろう。しかしそれらは、また学園の形成にあずかる人々にも要求されること勿論であつて、ただに教授のみに限ることではない。特に、このことは財政的にめぐまれない私立大学の場合、関係者の銘記すべきことである。私は、かく信じた。信じている。また信じて行く。

今や、わが国のみならず、アメリカにおいても「教育の危機」が、特にその財政的困難に直面して、強く叫ばれて来ているが、本学三十一年度予算も多額の借款を予定する苦境にありながら、あえてここに内容の充実に邁進する所以である。即ち、教授陣容の強化、留学制度の確立、図書費、個研用図書費及び研究費の増額、研究室の整備、学会出張及び学会開催旅費の強化、特別研究生制度の拡充等である。更に教育施設としては、第三学舎の完成を企画し、加及的速かに大学院、屋内体育館、中学校、学生会館の建築を実現して行くであろう。なお、わが国の文教政策としてもその必要を痛感せられているところであるが、わが大学としても理工学部の新設を迅速周密に企画実現せねばならぬと私は思う。

心中に去来するものは、本学の前途、世界の情勢等々……。深夜端坐して眠れざる想いにあるはただに私人ではなからう。特に職を教育のことに奉ずる者としてひとしおの感慨を覚える。ただ、驕馬に鞭打つて至誠を本学に捧げることが希うのみである。

(専務理事)

学内報

入学式挙行

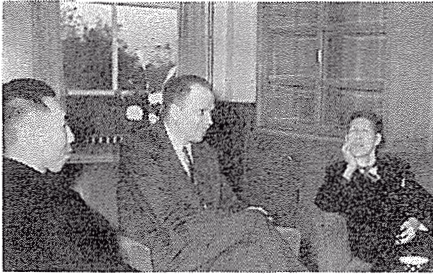
関西大学学部入学式(新制大学となつてから第九回目)は四月十二日に、一部は午前十一時より千里山学舎講堂、二部は午後五時より天六学舎講堂で挙行、岩崎学長の訓示に続いて新入生の宣誓が行われた。
なお学校法人関西大学の設置する関係学校の入学式も左の通り挙行された。

四月十六日午前十時 大学
四月三日午前十時 第一高等学校
四月五日午前九時 第一中学校

ロックフェラー財団

ファーズ博士来学

ロックフェラー財団人文科学部長C・B・ファーズ (CHARLES B. FAHS) 博士



博士ファーズの会議中

は、四月二十七日(金)来学、千里山大学院ホールにおいて本学、学長、理事、教授等と共に

池田榮教授に法学博士号授与



池田榮博士 法学博士 教授

池田榮教授は、かねて本学法学部に論文を提出して博士号を請求していたが、本年一月末の教授会でパスし、三月十四日付を以て法学博士号が授与された。

なお博士号授与式は、三月二十九日天六学舎理事会議室において行われ、本学役員出席の下に学長より同博士に学位記が授与された。

(略歴) 大正十四年京大卒、同助手、同助教授、昭和七年から滿二ヶ年文部省在外研究員として英・独・米に在留、同十一年京大教授、同二十五年本学講師、同二十七年教授、同二十八年大学院兼務、同三十一年法学博士

(論文題名)

「英国刑事公民政治史序説」

(参考論文)

「イギリス近代政治史研究Ⅰ」

午前十一時より約四時間にわたつて、和やかな懇談会を開催。特に先般同財団より「神秘主義に關聯した英米文学並びに東洋文学の比較的文學研究」のテーマで研究補助費を交付された堀文学部教授の

研究について、熱心に聴取した。

当日出席者(敬称略・順序不同)
岩崎学長、宮島理事、木村理事、森川理事、久井専務理事、矢野常務監事、板橋、今西、植田、魚邊、大小島、賀屋、高橋、中谷、堀、三木、矢口山田各教授

社団法人私大連盟

才一回通常總會

社団法人私立大学連盟では昭和三十一年四月十七日(金)午後一時より、関西大学千里山学舎大学院ホールにおいて、社



私大連盟才一回通常總會

団法人の設立許可後、第一回通常總會を開催次の議題についてそれぞれ検討した
一、昭和三十一年度事業計画承認の件
二、昭和三十一年度収支予算承認の件
三、定款の一部を改正するの件
四、財団法人私学研修福祉会(仮称)の設立に伴う寄附行為に關する議決の件
五、私立大学學術研究助成策に伴う臨時対策費徴収に關する議決の件

出席校(敬称略、ABC順)

愛知大学、青山学院大学、中央大学、同志社大学、同志社女子大学、法政大学、広島学院大学、上智大学、関西大学、関西学院大学、神戸学院大学、駒沢大学、久留米大学、共立女子大学、関西医科大学、明治大学、明治学院大学、大谷大学、立教大学、立命館大学、龍谷大学、専修大学、東京女子大学、東京歯科大学、天理大学、大正大学、東邦大学、東京慈恵会医科大学、東北学院大学、早稲田大学(以上三十校)

天六学舎体育館

新築工事地鎮祭

天六学舎体育館の新築工事地鎮祭は、四月二十五日(木)午前十時より、理事長はじめ各理事、評議員代表、各学部長、教授、職員列席のもとに、長柄八幡宮神官により、厳かに挙行された。



体育館地鎮祭

昭和三十一年度

特別奨学生

大学は社会の必要とする有為の人材を教育すべきであるとの趣旨に基き、全国最初の試みとして、本学が昭和三十年

度より実施した「特別奨学生制度」は全国各都道府県教育委員会の理解ある協賛

を得て、本年度も北は青森県より南は鹿児島県に至る教育委員会よりそれぞれ優秀な学生の推薦をうけ、入学を許可して勉学にいそしめることになった。
なお昭和三十一年度特別奨学生の推薦教育委員会及び被推薦高等学校名は左記の通りである。

入学許可 学部名	推薦教育委員会名	被推薦高等学校名
法学部 (一部)	青森県教育委員会	青森県立野辺地高等学校
	奈良県教育委員会	奈良県立添上高等学校
	山口県教育委員会	山口県立坂上高等学校
	群馬県教育委員会	群馬県立澁川高等学校
	和歌山県教育委員会	和歌山県立那賀高等学校
	秋田県教育委員会	秋田県立般川水産高等学校
	福岡県教育委員会	久留米大学附属高等学校
	山梨県教育委員会	山梨県立市川高等学校
	鳥取県教育委員会	鳥取県立鳥取西高等学校
	大分県教育委員会	大分県立宇佐高等学校
(二部)	大阪府教育委員会	大阪府立都島第二工業高等学校
文学部 (一部)	佐賀県教育委員会	佐賀県立佐賀工業高等学校
	高知県教育委員会	高知県立山田高等学校
経済学部 (一部)	滋賀県教育委員会	滋賀県立瀬田高等学校
	鹿児島県教育委員会	鹿児島県立指宿高等学校
	広島県教育委員会	広島市私立山陽高等学校
(二部)	岐阜県教育委員会	岐阜県立長良高等学校
商学部 (一部)	島根県教育委員会	島根県立松江商業高等学校

昭和三十一年度英文タイプ講習開講

就職課では昭和三十一年度英文タイプ講習(オ二回)を左の通り開講。

第一回	第二回
四月二十三日より 毎週三日	六月四日より (月、水、金)
六月二日まで	七月七日まで
右同	右同

昭和三十一年度就職講座実施

一、期間

自 五月 七日	八週間 毎日	午後四時より 午後七時半まで
自 六月三十日		

二、科目及時間数

科目	時間数	講師名	摘要
一般英語	一六	山崎紀男	二組に分けて 講義に付延三 二時間担当
時事英語	一六	水谷撥一	右同
金融及景気変動	一六	森川太郎	
貿易実務及	一六	賀屋俊雄	
商業英語	一六	安田信一	六月より開講 見込
商事解説	一六	(交渉中)	
会計及簿記	一六	松原藤由	
中小企業問題	八	植野郁太	
経営問題	八	河野 稔	
労 働 問題	八	西本寛一	
株式会社法素描	四	板橋菊松	(毎日新聞社経済部長)
証券問題解説	八	影林能次	

三、募集人員

四年次生 二〇〇名 三年次生 一〇〇名
但し三年次生は一般英語及時事英語のみ受講できる

人事異動

昭和三十一年三月十四日付 法学博士の学位を授く	教授 池田 榮	同 四月一日付 本大学専任講師に任ずる	同 四月一日付 本大学専任講師に任ずる
同 四月一日付 本大学教授に任ずる	助教授 川口 勇	同 四月一日付 本大学専任講師に任ずる	同 四月一日付 本大学専任講師に任ずる

学生



スキー部

関西学生スキー選手権に九連勝
 関西学生スキー選手権は長野県野沢温泉スキー場で一月二十一日より三日間開催されたが、本学は全日本学生選手権での不振を挽回、大量得点八十点を獲得九連勝を遂げた。

各種目記録は次の通りである(本学関係のみ)
 耐久、(1)後藤司 2時間14分22秒(2)加川(3)阿部(4)山口
 滑降、(1)松沢寿彦 2分51秒4(2)岸(3)佐々木(5)井口(6)渡辺
 長距離、(1)後藤司 1時間8分12秒(2)阿部
 回転、なし
 複合、(3)平山 426・2(231・3)
 飛躍、なし

リレー、(1)関大(山口、後藤、阿部、平山)

総得点、(1)関大(80)(2)関学(36)(3)同大(17)(4)近大(18)(5)立命大(6)(6)京大(2)

アイス・スケート部

第4回関西学生氷上選手権ホッケー最終日は一月十七日、アサヒ・アリーナで三位決定戦及び決勝が行われたが、本学は大商大を破り三連勝を遂げた。当日の記録は

決勝 関大 6 (2210) 2 大商大

剣道部

腰塚、全日本しない競技で優勝

二月十九日、午前十時から大阪府立体育館で全日本しない競技大会が行われ、参加した全国の精鋭が熱戦を展開したが、本学腰塚五段は、強豪を打ち破り、優勝戦に進出、法大、林五段を倒し優勝を遂げた。

腰塚五段(関大) 4-2 林五段(法大)

野球部

本年は小田、西山の主軸打者を送り出した上に、中西、法元がプロに引き抜かれた穴をいかにカバーして行くかが同部の課題であり、野球部にとっては試練の年となるであらう。きたるべきリーグ戦には脆さをなくし勝負に強くなることが望まれている。

第一節 四月十四日(土) 本学対神大 於日生
 第二節 四月十五日(日) 神大对本学 於日生
 第三節 四月十六日(月) 本学対同大 於西京極
 第四節 四月十七日(火) 同大对本学 於西京極
 第五節 四月十八日(水) 本学対立命 於日生
 第六節 四月十九日(木) 立命对本学 於日生
 第七節 四月二十日(金) 本学対京大 於日生
 第八節 四月二十一日(土) 京大对本学 於日生

オ八節 六月二日(土) 関学对本学 於日生
 " 三日(日) 本学対関学 " " "

陸上競技部

昨年、関西駅伝には立命、近大に破れ三位となったが、本年度関西インター・カレッジ、西日本インター・カレッジには連続制覇の偉業を樹てることが望まれている。陸上運動部関係本年度、春より夏迄の行事予定左の通り。

四月廿九日 近畿府県対抗(関西学生新人戦)
 五月十二日 関西交部インター・カレッジ各支部
 五月十三日 関西インター・カレッジ
 五月下旬 関西インター・カレッジ
 六月三日 オリンピック候補戦(大阪市立運動場)
 六月下旬 西日本インター・カレッジ(鹿児島)



アメリカン・フットボール部

過去に数多くの名プレイヤーを出したこの部も、漸次部員数の増加につれて往年の生気を取り戻し、今春の西日本選手権大会、対法政、対早稲田戦が期待され

ている。

西日本選手権大会
 四月廿二日 全甲南大
 全滋賀大
 全京大
 全神大
 全立命大
 全大商大
 全同大
 全関学
 全本学

四月廿九日 金立命大
 金大商大
 金同大
 金関学
 金本学

五月六日 対法政定期戦
 五月廿七日 対早稲田定期戦

ホッケー部

今春レギュラーの大部分を卒業させ、新人を加えて漸くチーム編成を終るといいう状態であったが、伝統ある同部が、昨年に引き続き関西リーグのみならず、全日本、本学の覇者たる光榮を担うことが出来るか否かは、リーグ戦を通じての部員の精進に俟つところ大である。春季リーグ戦日程次の通り。

四月四日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 四月五日(木) 本学 対 京大 於西宮
 四月六日(金) 本学 対 神大 於西宮
 四月七日(土) 本学 対 同大 於西宮
 四月八日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 四月九日(月) 本学 対 京大 於西宮
 四月十日(火) 本学 対 神大 於西宮
 四月十一日(水) 本学 対 同大 於西宮
 四月十二日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 四月十三日(金) 本学 対 京大 於西宮
 四月十四日(土) 本学 対 神大 於西宮
 四月十五日(日) 本学 対 同大 於西宮
 四月十六日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 四月十七日(火) 本学 対 京大 於西宮
 四月十八日(水) 本学 対 神大 於西宮
 四月十九日(木) 本学 対 同大 於西宮
 四月二十日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 四月二十一日(土) 本学 対 京大 於西宮
 四月二十二日(日) 本学 対 神大 於西宮
 四月二十三日(月) 本学 対 同大 於西宮
 四月二十四日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 四月二十五日(水) 本学 対 京大 於西宮
 四月二十六日(木) 本学 対 神大 於西宮
 四月二十七日(金) 本学 対 同大 於西宮
 四月二十八日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 四月二十九日(日) 本学 対 京大 於西宮
 四月三十日(月) 本学 対 神大 於西宮
 五月一日(火) 本学 対 同大 於西宮
 五月二日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 五月三日(木) 本学 対 京大 於西宮
 五月四日(金) 本学 対 神大 於西宮
 五月五日(土) 本学 対 同大 於西宮
 五月六日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 五月七日(月) 本学 対 京大 於西宮
 五月八日(火) 本学 対 神大 於西宮
 五月九日(水) 本学 対 同大 於西宮
 五月十日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 五月十一日(金) 本学 対 京大 於西宮
 五月十二日(土) 本学 対 神大 於西宮
 五月十三日(日) 本学 対 同大 於西宮
 五月十四日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 五月十五日(火) 本学 対 京大 於西宮
 五月十六日(水) 本学 対 神大 於西宮
 五月十七日(木) 本学 対 同大 於西宮
 五月十八日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 五月十九日(土) 本学 対 京大 於西宮
 五月二十日(日) 本学 対 神大 於西宮
 五月二十一日(月) 本学 対 同大 於西宮
 五月二十二日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 五月二十三日(水) 本学 対 京大 於西宮
 五月二十四日(木) 本学 対 神大 於西宮
 五月二十五日(金) 本学 対 同大 於西宮
 五月二十六日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 五月二十七日(日) 本学 対 京大 於西宮
 五月二十八日(月) 本学 対 神大 於西宮
 五月二十九日(火) 本学 対 同大 於西宮
 五月三十日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 五月三十一日(木) 本学 対 京大 於西宮
 六月一日(金) 本学 対 神大 於西宮
 六月二日(土) 本学 対 同大 於西宮
 六月三日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 六月四日(月) 本学 対 京大 於西宮
 六月五日(火) 本学 対 神大 於西宮
 六月六日(水) 本学 対 同大 於西宮
 六月七日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 六月八日(金) 本学 対 京大 於西宮
 六月九日(土) 本学 対 神大 於西宮
 六月十日(日) 本学 対 同大 於西宮
 六月十一日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 六月十二日(火) 本学 対 京大 於西宮
 六月十三日(水) 本学 対 神大 於西宮
 六月十四日(木) 本学 対 同大 於西宮
 六月十五日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 六月十六日(土) 本学 対 京大 於西宮
 六月十七日(日) 本学 対 神大 於西宮
 六月十八日(月) 本学 対 同大 於西宮
 六月十九日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 六月二十日(水) 本学 対 京大 於西宮
 六月二十一日(木) 本学 対 神大 於西宮
 六月二十二日(金) 本学 対 同大 於西宮
 六月二十三日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 六月二十四日(日) 本学 対 京大 於西宮
 六月二十五日(月) 本学 対 神大 於西宮
 六月二十六日(火) 本学 対 同大 於西宮
 六月二十七日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 六月二十八日(木) 本学 対 京大 於西宮
 六月二十九日(金) 本学 対 神大 於西宮
 六月三十日(土) 本学 対 同大 於西宮
 六月三十一日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 七月一日(月) 本学 対 京大 於西宮
 七月二日(火) 本学 対 神大 於西宮
 七月三日(水) 本学 対 同大 於西宮
 七月四日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 七月五日(金) 本学 対 京大 於西宮
 七月六日(土) 本学 対 神大 於西宮
 七月七日(日) 本学 対 同大 於西宮
 七月八日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 七月九日(火) 本学 対 京大 於西宮
 七月十日(水) 本学 対 神大 於西宮
 七月十一日(木) 本学 対 同大 於西宮
 七月十二日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 七月十三日(土) 本学 対 京大 於西宮
 七月十四日(日) 本学 対 神大 於西宮
 七月十五日(月) 本学 対 同大 於西宮
 七月十六日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 七月十七日(水) 本学 対 京大 於西宮
 七月十八日(木) 本学 対 神大 於西宮
 七月十九日(金) 本学 対 同大 於西宮
 七月二十日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 七月二十一日(日) 本学 対 京大 於西宮
 七月二十二日(月) 本学 対 神大 於西宮
 七月二十三日(火) 本学 対 同大 於西宮
 七月二十四日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 七月二十五日(木) 本学 対 京大 於西宮
 七月二十六日(金) 本学 対 神大 於西宮
 七月二十七日(土) 本学 対 同大 於西宮
 七月二十八日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 七月二十九日(月) 本学 対 京大 於西宮
 七月三十日(火) 本学 対 神大 於西宮
 七月三十一日(水) 本学 対 同大 於西宮
 八月一日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 八月二日(金) 本学 対 京大 於西宮
 八月三日(土) 本学 対 神大 於西宮
 八月四日(日) 本学 対 同大 於西宮
 八月五日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 八月六日(火) 本学 対 京大 於西宮
 八月七日(水) 本学 対 神大 於西宮
 八月八日(木) 本学 対 同大 於西宮
 八月九日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 八月十日(土) 本学 対 京大 於西宮
 八月十一日(日) 本学 対 神大 於西宮
 八月十二日(月) 本学 対 同大 於西宮
 八月十三日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 八月十四日(水) 本学 対 京大 於西宮
 八月十五日(木) 本学 対 神大 於西宮
 八月十六日(金) 本学 対 同大 於西宮
 八月十七日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 八月十八日(日) 本学 対 京大 於西宮
 八月十九日(月) 本学 対 神大 於西宮
 八月二十日(火) 本学 対 同大 於西宮
 八月二十一日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 八月二十二日(木) 本学 対 京大 於西宮
 八月二十三日(金) 本学 対 神大 於西宮
 八月二十四日(土) 本学 対 同大 於西宮
 八月二十五日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 八月二十六日(月) 本学 対 京大 於西宮
 八月二十七日(火) 本学 対 神大 於西宮
 八月二十八日(水) 本学 対 同大 於西宮
 八月二十九日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 八月三十日(金) 本学 対 京大 於西宮
 八月三十一日(土) 本学 対 神大 於西宮
 九月一日(日) 本学 対 同大 於西宮
 九月二日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 九月三日(火) 本学 対 京大 於西宮
 九月四日(水) 本学 対 神大 於西宮
 九月五日(木) 本学 対 同大 於西宮
 九月六日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 九月七日(土) 本学 対 京大 於西宮
 九月八日(日) 本学 対 神大 於西宮
 九月九日(月) 本学 対 同大 於西宮
 九月十日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 九月十一日(水) 本学 対 京大 於西宮
 九月十二日(木) 本学 対 神大 於西宮
 九月十三日(金) 本学 対 同大 於西宮
 九月十四日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 九月十五日(日) 本学 対 京大 於西宮
 九月十六日(月) 本学 対 神大 於西宮
 九月十七日(火) 本学 対 同大 於西宮
 九月十八日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 九月十九日(木) 本学 対 京大 於西宮
 九月二十日(金) 本学 対 神大 於西宮
 九月二十一日(土) 本学 対 同大 於西宮
 九月二十二日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 九月二十三日(月) 本学 対 京大 於西宮
 九月二十四日(火) 本学 対 神大 於西宮
 九月二十五日(水) 本学 対 同大 於西宮
 九月二十六日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 九月二十七日(金) 本学 対 京大 於西宮
 九月二十八日(土) 本学 対 神大 於西宮
 九月二十九日(日) 本学 対 同大 於西宮
 九月三十日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 十月一日(火) 本学 対 京大 於西宮
 十月二日(水) 本学 対 神大 於西宮
 十月三日(木) 本学 対 同大 於西宮
 十月四日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 十月五日(土) 本学 対 京大 於西宮
 十月六日(日) 本学 対 神大 於西宮
 十月七日(月) 本学 対 同大 於西宮
 十月八日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 十月九日(水) 本学 対 京大 於西宮
 十月十日(木) 本学 対 神大 於西宮
 十月十一日(金) 本学 対 同大 於西宮
 十月十二日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 十月十三日(日) 本学 対 京大 於西宮
 十月十四日(月) 本学 対 神大 於西宮
 十月十五日(火) 本学 対 同大 於西宮
 十月十六日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 十月十七日(木) 本学 対 京大 於西宮
 十月十八日(金) 本学 対 神大 於西宮
 十月十九日(土) 本学 対 同大 於西宮
 十月二十日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 十月二十一日(月) 本学 対 京大 於西宮
 十月二十二日(火) 本学 対 神大 於西宮
 十月二十三日(水) 本学 対 同大 於西宮
 十月二十四日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 十月二十五日(金) 本学 対 京大 於西宮
 十月二十六日(土) 本学 対 神大 於西宮
 十月二十七日(日) 本学 対 同大 於西宮
 十月二十八日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 十月二十九日(火) 本学 対 京大 於西宮
 十月三十日(水) 本学 対 神大 於西宮
 十月三十一日(木) 本学 対 同大 於西宮
 十一月一日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 十一月二日(土) 本学 対 京大 於西宮
 十一月三日(日) 本学 対 神大 於西宮
 十一月四日(月) 本学 対 同大 於西宮
 十一月五日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 十一月六日(水) 本学 対 京大 於西宮
 十一月七日(木) 本学 対 神大 於西宮
 十一月八日(金) 本学 対 同大 於西宮
 十一月九日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 十一月十日(日) 本学 対 京大 於西宮
 十一月十一日(月) 本学 対 神大 於西宮
 十一月十二日(火) 本学 対 同大 於西宮
 十一月十三日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 十一月十四日(木) 本学 対 京大 於西宮
 十一月十五日(金) 本学 対 神大 於西宮
 十一月十六日(土) 本学 対 同大 於西宮
 十一月十七日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 十一月十八日(月) 本学 対 京大 於西宮
 十一月十九日(火) 本学 対 神大 於西宮
 十一月二十日(水) 本学 対 同大 於西宮
 十一月二十一日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 十一月二十二日(金) 本学 対 京大 於西宮
 十一月二十三日(土) 本学 対 神大 於西宮
 十一月二十四日(日) 本学 対 同大 於西宮
 十一月二十五日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 十一月二十六日(火) 本学 対 京大 於西宮
 十一月二十七日(水) 本学 対 神大 於西宮
 十一月二十八日(木) 本学 対 同大 於西宮
 十一月二十九日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 十一月三十日(土) 本学 対 京大 於西宮
 十一月三十一日(日) 本学 対 神大 於西宮
 十二月一日(月) 本学 対 同大 於西宮
 十二月二日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 十二月三日(水) 本学 対 京大 於西宮
 十二月四日(木) 本学 対 神大 於西宮
 十二月五日(金) 本学 対 同大 於西宮
 十二月六日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 十二月七日(日) 本学 対 京大 於西宮
 十二月八日(月) 本学 対 神大 於西宮
 十二月九日(火) 本学 対 同大 於西宮
 十二月十日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 十二月十一日(木) 本学 対 京大 於西宮
 十二月十二日(金) 本学 対 神大 於西宮
 十二月十三日(土) 本学 対 同大 於西宮
 十二月十四日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 十二月十五日(月) 本学 対 京大 於西宮
 十二月十六日(火) 本学 対 神大 於西宮
 十二月十七日(水) 本学 対 同大 於西宮
 十二月十八日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 十二月十九日(金) 本学 対 京大 於西宮
 十二月二十日(土) 本学 対 神大 於西宮
 十二月二十一日(日) 本学 対 同大 於西宮
 十二月二十二日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 十二月二十三日(火) 本学 対 京大 於西宮
 十二月二十四日(水) 本学 対 神大 於西宮
 十二月二十五日(木) 本学 対 同大 於西宮
 十二月二十六日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 十二月二十七日(土) 本学 対 京大 於西宮
 十二月二十八日(日) 本学 対 神大 於西宮
 十二月二十九日(月) 本学 対 同大 於西宮
 十二月三十日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 十二月三十一日(水) 本学 対 京大 於西宮
 一月一日(木) 本学 対 神大 於西宮
 一月二日(金) 本学 対 同大 於西宮
 一月三日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 一月四日(日) 本学 対 京大 於西宮
 一月五日(月) 本学 対 神大 於西宮
 一月六日(火) 本学 対 同大 於西宮
 一月七日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 一月八日(木) 本学 対 京大 於西宮
 一月九日(金) 本学 対 神大 於西宮
 一月十日(土) 本学 対 同大 於西宮
 一月十一日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 一月十二日(月) 本学 対 京大 於西宮
 一月十三日(火) 本学 対 神大 於西宮
 一月十四日(水) 本学 対 同大 於西宮
 一月十五日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 一月十六日(金) 本学 対 京大 於西宮
 一月十七日(土) 本学 対 神大 於西宮
 一月十八日(日) 本学 対 同大 於西宮
 一月十九日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 一月二十日(火) 本学 対 京大 於西宮
 一月二十一日(水) 本学 対 神大 於西宮
 一月二十二日(木) 本学 対 同大 於西宮
 一月二十三日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 一月二十四日(土) 本学 対 京大 於西宮
 一月二十五日(日) 本学 対 神大 於西宮
 一月二十六日(月) 本学 対 同大 於西宮
 一月二十七日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 一月二十八日(水) 本学 対 京大 於西宮
 一月二十九日(木) 本学 対 神大 於西宮
 一月三十日(金) 本学 対 同大 於西宮
 一月三十一日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 二月一日(日) 本学 対 京大 於西宮
 二月二日(月) 本学 対 神大 於西宮
 二月三日(火) 本学 対 同大 於西宮
 二月四日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 二月五日(木) 本学 対 京大 於西宮
 二月六日(金) 本学 対 神大 於西宮
 二月七日(土) 本学 対 同大 於西宮
 二月八日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 二月九日(月) 本学 対 京大 於西宮
 二月十日(火) 本学 対 神大 於西宮
 二月十一日(水) 本学 対 同大 於西宮
 二月十二日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 二月十三日(金) 本学 対 京大 於西宮
 二月十四日(土) 本学 対 神大 於西宮
 二月十五日(日) 本学 対 同大 於西宮
 二月十六日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 二月十七日(火) 本学 対 京大 於西宮
 二月十八日(水) 本学 対 神大 於西宮
 二月十九日(木) 本学 対 同大 於西宮
 二月二十日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 二月二十一日(土) 本学 対 京大 於西宮
 二月二十二日(日) 本学 対 神大 於西宮
 二月二十三日(月) 本学 対 同大 於西宮
 二月二十四日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 二月二十五日(水) 本学 対 京大 於西宮
 二月二十六日(木) 本学 対 神大 於西宮
 二月二十七日(金) 本学 対 同大 於西宮
 二月二十八日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 二月二十九日(日) 本学 対 京大 於西宮
 二月三十日(月) 本学 対 神大 於西宮
 二月三十一日(火) 本学 対 同大 於西宮
 三月一日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 三月二日(木) 本学 対 京大 於西宮
 三月三日(金) 本学 対 神大 於西宮
 三月四日(土) 本学 対 同大 於西宮
 三月五日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 三月六日(月) 本学 対 京大 於西宮
 三月七日(火) 本学 対 神大 於西宮
 三月八日(水) 本学 対 同大 於西宮
 三月九日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 三月十日(金) 本学 対 京大 於西宮
 三月十一日(土) 本学 対 神大 於西宮
 三月十二日(日) 本学 対 同大 於西宮
 三月十三日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 三月十四日(火) 本学 対 京大 於西宮
 三月十五日(水) 本学 対 神大 於西宮
 三月十六日(木) 本学 対 同大 於西宮
 三月十七日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 三月十八日(土) 本学 対 京大 於西宮
 三月十九日(日) 本学 対 神大 於西宮
 三月二十日(月) 本学 対 同大 於西宮
 三月二十一日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 三月二十二日(水) 本学 対 京大 於西宮
 三月二十三日(木) 本学 対 神大 於西宮
 三月二十四日(金) 本学 対 同大 於西宮
 三月二十五日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 三月二十六日(日) 本学 対 京大 於西宮
 三月二十七日(月) 本学 対 神大 於西宮
 三月二十八日(火) 本学 対 同大 於西宮
 三月二十九日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 三月三十日(木) 本学 対 京大 於西宮
 三月三十一日(金) 本学 対 神大 於西宮
 四月一日(土) 本学 対 同大 於西宮
 四月二日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 四月三日(月) 本学 対 京大 於西宮
 四月四日(火) 本学 対 神大 於西宮
 四月五日(水) 本学 対 同大 於西宮
 四月六日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 四月七日(金) 本学 対 京大 於西宮
 四月八日(土) 本学 対 神大 於西宮
 四月九日(日) 本学 対 同大 於西宮
 四月十日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 四月十一日(火) 本学 対 京大 於西宮
 四月十二日(水) 本学 対 神大 於西宮
 四月十三日(木) 本学 対 同大 於西宮
 四月十四日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 四月十五日(土) 本学 対 京大 於西宮
 四月十六日(日) 本学 対 神大 於西宮
 四月十七日(月) 本学 対 同大 於西宮
 四月十八日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 四月十九日(水) 本学 対 京大 於西宮
 四月二十日(木) 本学 対 神大 於西宮
 四月二十一日(金) 本学 対 同大 於西宮
 四月二十二日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 四月二十三日(日) 本学 対 京大 於西宮
 四月二十四日(月) 本学 対 神大 於西宮
 四月二十五日(火) 本学 対 同大 於西宮
 四月二十六日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 四月二十七日(木) 本学 対 京大 於西宮
 四月二十八日(金) 本学 対 神大 於西宮
 四月二十九日(土) 本学 対 同大 於西宮
 四月三十日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 四月三十一日(月) 本学 対 京大 於西宮
 五月一日(火) 本学 対 神大 於西宮
 五月二日(水) 本学 対 同大 於西宮
 五月三日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 五月四日(金) 本学 対 京大 於西宮
 五月五日(土) 本学 対 神大 於西宮
 五月六日(日) 本学 対 同大 於西宮
 五月七日(月) 本学 対 立命大 於西宮
 五月八日(火) 本学 対 京大 於西宮
 五月九日(水) 本学 対 神大 於西宮
 五月十日(木) 本学 対 同大 於西宮
 五月十一日(金) 本学 対 立命大 於西宮
 五月十二日(土) 本学 対 京大 於西宮
 五月十三日(日) 本学 対 神大 於西宮
 五月十四日(月) 本学 対 同大 於西宮
 五月十五日(火) 本学 対 立命大 於西宮
 五月十六日(水) 本学 対 京大 於西宮
 五月十七日(木) 本学 対 神大 於西宮
 五月十八日(金) 本学 対 同大 於西宮
 五月十九日(土) 本学 対 立命大 於西宮
 五月二十日(日) 本学 対 京大 於西宮
 五月二十一日(月) 本学 対 神大 於西宮
 五月二十二日(火) 本学 対 同大 於西宮
 五月二十三日(水) 本学 対 立命大 於西宮
 五月二十四日(木) 本学 対 京大 於西宮
 五月二十五日(金) 本学 対 神大 於西宮
 五月二十六日(土) 本学 対 同大 於西宮
 五月二十七日(日) 本学 対 立命大 於西宮
 五月二十八日(月) 本学 対 京大 於西宮
 五月二十九日(火) 本学 対 神大 於西宮
 五月三十日(水) 本学 対 同大 於西宮
 五月三十一日(木) 本学 対 立命大 於西宮
 六月一日(金) 本学



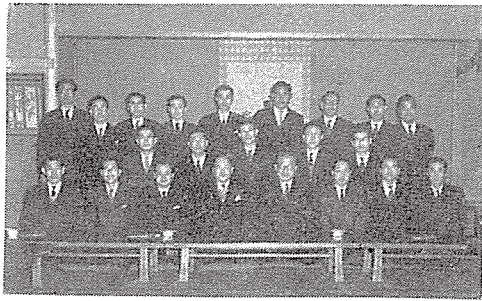
校友 バツヂ

校 友

関西大学一六会(昭和十六年大学卒)

三月三日午後五時より大阪市北区真砂町料亭「与市」に於て、一六会を開催、母校関西大学より岩崎卯一学長、並に矢野文雄常務監事出席、種々母校の近況を聞き会員一同感激した。尚当日出席の会員は左の通りである。

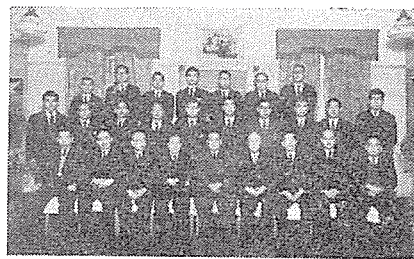
朝垣 榮二 弘末 正彦 久員 秀雄
小寺 正美 名刺 要一 村山 正純
水間 通夫 森下 清 中村 平治郎
内藤 英雄 中川 進造 田中 一郎
中瀬 正雄 西井 清 渡辺 茂
田中 利一 湯川 耕三 万谷 丈夫
西谷 勇久 藤本 清 渡辺 茂
右世話人 田中 一郎(関西大学秘書課)



一六会 総会

祥久会春季総会

そぼふる春雨もいつしかやんだ三月十七日(七)午後五時より祥久会と改名後第一回春季総会を「双葉」に於て開催。先



祥久会 春季総会

ず矢野会長より学校の近況報告、卒業後二十二年の才月が夢の如く消え去つた今日、我が千里山十期生の会名は同期生にはもとより校友各位の間にも学報を通じて或は校友新聞を通じて共に親しまれて来たが、昭和九年の卒業でありながら十期会という名称は昭和十年の卒業と誤解されやすい向きもあつて、今回榎本教授の發案により永久に歡び榮えと云う意味と昭九と云う發音を併用し得る祥久会に改名した事を披露し、名実共にこの会を一層よきものにして行きたいとの力強い挨拶があつて小宴に入る。当日は卒業生のみ水入らずの会合にて遠くは東京より馳せ参じた田中壽藏氏又かつてはボーイ選手として有名な永井政次氏や田中正長氏の初顔も並び中々入念な興味深い自己紹介や、互にかわしく益の中に旧友

回顧談に盡きぬ名残りを惜しみつゝ、午後九時散会。

出席者 浅野時男 樺生真玄 根本金次郎 江里口春志
川並秀雄 河合 中 河内兼三 加藤光次 左海
伊和 竹沢喜代治 田中寿藏 田中正長 永井政次
飛田陽一 福岡彰郎 本多喜慶 松谷連政
村山寿行 森 裕次 森下善雄 矢野文雄 八十
原武之助 中山 蔵

尼崎支部総会

三月二十四日(土)午後五時三十分より尼崎商工会議室に於て、支部長松尾高一氏、副支部長山野田重治氏の尼崎商工会議所正副会頭就任祝賀会を兼ね全員六十名の参会を得て盛大なる総会を行つた。



尼崎支部 総会

母校より白川理事長、岩崎学長、森川経済学部長を迎え又神戸支部より山崎、向井正副支部長が出席、特に当支部より選出された兩氏の榮譽に對し会員を代表して元代議士吉田吉太郎氏より祝賀の言葉を述べ、白川理事長、岩崎学長よりも夫々慶びの挨拶、又森川教授よりは学内外の報告等があつて後、懇親会。会員より母校の想い出、校友の近況等を語り合い名残りを盡きぬまゝ、学歌を高唱し、母校、支部、松尾、山野田兩氏の万才を三唱し九時散会した。

西成支部総会

三月二十四日午後六時より千日前喜楽別館で第二回総会を開催。今井支部長より三十年度経過報告と本年度の抱負について詳説。校友としてその力強さに感銘を新たにした後、会員の紹介、新会員の歓迎を兼ね懇親会に移り学生時代を偲びつつ、珍芸の続出など気諷々裡に午後十時散会。

参会者 母校側 安井校友課長
会員側 東川幸一 千葉 茂 西尾泰治 大井省吾 金井
清重 石川寛水 本全文一 森 鉦子 由本 保
北村喜八郎 岡山博孝 山田信夫 山川博道 田
中俊一 市岡 勲 三谷久男 市岡保徳 今井司

川西支部定時総会

昭和三十一年度定時総会を四月一日(日)午後三時より川西公会堂に於て開催。予想外に参会者が少かつたので座談的に話を進め、今後の支部運営及本年度の事業につき活発な意見が出て、小教乍らも実に熱意に溢れた会合であるとの感が深かつた。今後は、約百名の支部員に

關西大學 經濟論集 (近刊)

創立七十周年記念特輯

二九〇頁・かがり巻表紙
頒価 金三百五十円

内 容	著者
労働の生産性測定の基本問題	高木 秀玄
人口論対象方法論序説	市原 亮平
ロビンソンの労働需要論	三谷 友吉
雇用理論の学史的 연구の一部	澤村 榮治
ヴェブレンと教育経済学	杉原 四郎
教育経済学研究の一編	鏑方 貞亮
J・S・ミルと社会主義	鏑方 貞亮
遺稿「社会主義論」研究序説	宇田 米夫
本邦古代粟作考	宇田 米夫
特にその由来	宇田 米夫
マニファクチュア労働について矢口孝次郎	矢口 孝次郎
一九世紀イギリスにおける土地経営の一典型	荒井 政治
一九世紀後半における	東井 正美
アメリカ南部農村社会層の分化・分解	森川 太郎
大戦以後の英国銀行業	森川 太郎
貸出減少の傾向とそれをめぐる問題	森川 太郎
終戦十一年の日本経済政策の動向	松原 藤由
日本造船業の成立と構造	越後 和典
港湾工業	宇田 米夫
大阪港の復興計画を中心として	宇田 米夫

關西大學 商學論集 (近刊)

創立七十周年記念特輯

二七六頁・かがり巻表紙
頒価 金三百五十円

内 容	著者
英国の小売商	山崎 紀男
海上売買におけるF・O・B	賀屋 俊雄
条件について	賀屋 俊雄
白耳義國アントワープ港に於ける慣習を	賀屋 俊雄
中心として	賀屋 俊雄
株式の価値と価格の關係	今西 庄次郎
觀光経済学の基礎概念	河村 宣介
会社経営の合理化と会社制度	板橋 菊松
株式会社を対象とした経済法的考察	板橋 菊松
経営参加と労使協力	鯉江 城夫
「販売主義」の理論的根拠について	植野 郁太
固定資産再評価の会計実務	酒井 文雄
資本剰余金の概念と分類	河合 信雄
資本剰余金の本質理解の手掛りとして	河合 信雄
戦前及び戦後におけるアメリカ	安田 信一
経済の成長と発展	安田 信一
経済発展と産業構造についての序説	安田 信一
絶対的貧困化の形態	河野 稔
「ユルゲン・クチンスキー」の「貧困化理論」	河野 稔
の覚書(1)	河野 稔
G・D・H・コールの社会化論	寺尾 晃洋
戦後カゾオ・マクロ漁業の	寺尾 晃洋
実態と展望	柏尾 昌哉

關西大學 文學論集 (近刊)

創立七十周年記念特輯

七二〇頁・かがり巻表紙
頒価 金七百円

内 容	著者
Community Communication	井上 吉次郎
サルトル哲学の出発点について	岡野 留次郎
ハイデガーに於ける「無」について	大小 島真二
倫理現象と政治現象—人間学的研究	田中 照
史 学	田中 照
ヘーゲルとその時代	秋山 博愛
近世城下の成立	魚澄 惣五郎
占地による前方後円墳の形式分類	末永 雅雄
猿の心臓	高橋 盛幸
サラセン帝国の駅通局長について	藤本 勝次
武漢時代に於けるコミンテルン	三上 諒聰
藤原鎌足伝研究序説	横田 健一
一家伝の成立	横田 健一
文 学	横田 健一
「玄峯集」の註釈書について	飯田 正一
「あはむくも」	澤 瀉久孝
「昨日今日の物語」と「醒睡笑」	金子 又兵衛
已然形にの添うた形について	吉永 登
E・M・フォスター	大西 昭男
一その沈黙—	大西 昭男
Evelyn Waughの初期小説	小野 勇
「特」その「乾いた文学」としての性	小野 勇
格について	小野 勇
物語作家クラフ	進藤 浩二郎
「ハムレット」の第一独白	玉木 意志太
「一幕場」(二九一五行)	玉木 意志太
英国小説における仮構について	角田 文雄
(序論)	角田 文雄
聖書の「Jacked」について	廣瀬 捨三
J・S・エリオットの「四つの	堀 正人
四重奏曲」の標題について	堀 正人
D・H・ロレンスの自叙伝	山本 榮一郎
アーサー・伝説発展の概要	三木 治
アルダルベルト・シュティフター	見次 直雄
の宿命	見次 直雄
国際語と自然科学術語	橋田 慶藏
史 学	橋田 慶藏
蒙古文獻研究會目錄	石浜 純太郎
—蒙古文獻研究會目錄—	石浜 純太郎
文 学	石浜 純太郎
D・H・Lawrence の作品に用いられた英国	廣岡 英雄
中部地方方言の人称代名詞について	廣岡 英雄
ジョン・キーツの詩に於ける	星野 信夫
彼の色調	星野 信夫
「Pantagruel」のヴァリアントにあらわ	小方 厚彦
れた十六世紀フランス語	小方 厚彦
Schiller ドイツ語の史的考察	福本 喜之助
自然科学	福本 喜之助
精密インベスメント鑄造法	入江 深
整数の關係	河村 信一

關西大學 法學論集

創立七十周年記念特輯

(印刷中)

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十一年四月三十日発行(毎月一回三十日発行)

關西大學學報

第二九〇號 四月號